

## 仏教の展開

2018 年本試

問 5 理想とされた生のあり方を説明した記述として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

15
----

- ① 孔子は，武力に訴えるのではなく，仁と礼に基づく霸道政治を行った聖人の生き方を理想とした。
- ② 孔子は，仁を重視する生き方は次善のものだとし，仁が不要となるような自然と調和した生き方を理想とした。
- ③ 大乘仏教では，修行者として悟りを得て，煩惱のない境地に到達した阿羅漢のあり方が理想とされた。
- ④ 大乘仏教では，自己の悟りを目指すだけでなく，利他行に励む菩薩のあり方が理想とされた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	15	④	2

2018 年追試

問 1 ブッダの教えを信奉する仏教教団の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 在家信者になるための条件として、仏・法・僧の三宝への帰依を誓うことが必要とされる。
- ② 不殺生や不邪淫などの五戒は在家信者のためのものであり、出家修行者には適用されない。
- ③ 在家信者たちのなかには、ブッダの遺骨を納める仏塔(ストゥーパ)に集まり、供養を行う者たちがいた。
- ④ 出家修行者たちの間で、戒律の規定などをめぐり、保守的な上座部と改革派の大衆部への分裂が起きた。

問 7 次の文章は、時間の本性に関するインドと中国の思想を説明したものである。文章中の  ・  に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

インドにおいては、時間を一つの実体として捉える考え方がある一方で、時間には固定的な実体(自性)はないとする考え方もあった。とりわけ、ナーガールジュナ(竜樹)は、あらゆる存在は  関係にあることを説く縁起の思想に基づき、過去・現在・未来もまた  関係にあると主張し、大乘仏教の時間論に一つの方向性を与えた。

中国においては、時間の変化を陰と陽の交替で表す考えがあったが、その理論的基盤を提供した『易』は、儒教の経典の一つに数え入れられた。陰陽交替の考えは、無から有が生じ、有が無へと帰る永遠の運動を説く  の思想とも親和的で、後世に大きな影響を与えた。

- ① a 相互に依存する                      b 墨子
- ② a 相互に依存する                      b 老子
- ③ a 相互に否定し合う                    b 墨子

④ a 相互に否定し合う      b 老子

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問1	11	②	2
第2問	問7	17	②	3

2016 年追試

問 7 次の文章は、智慧の内容をめぐる、竜樹(ナーガールジュナ)とその批判者との対話の一部である。ここから読み取れる竜樹の考えとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

批判者：空であることばを用いて、ものの本体が否定されることはない。ものは、存在しない火によって焼かれない。同じように、存在しないことばによって、ものの本体を否定することはできない。

竜 樹：君はものが空であることの意味を理解していない。……空であるとは、他に縁<sup>よ</sup>って存在しているということである。なぜそう言えるのか。本体がないからである。実に、他に縁<sup>よ</sup>って生じているものは、本体をもって存在しているのではない。それ自身で存在していないからである。……車<sup>つば</sup>や壺<sup>つぼ</sup>や布などは、他に縁<sup>よ</sup>って生じているため本体をもたないけれども、木や草や土を運ぶといったはたらきをする。同じように、私のこのことばも、他に縁<sup>よ</sup>って生じているため本体をもたないけれども、ものに本体がないことを証明するはたらきをするのだ。

(『論争の超越』より)

- ① ものが存在していないことと、ものが空であることは、同一ではない。ものが存在していないとは、ものはもっぱら他に縁<sup>よ</sup>って生じるということであり、他に縁<sup>よ</sup>って生じたものにも、何かを行うはたらきはある。
- ② ものがそれ自身で存在していないことと、ものが存在していないことは、同一ではない。ものがそれ自身で存在していないとは、ものに本体があるということであり、本体があるものにも、何かを行うはたらきはある。
- ③ ものが存在していないことと、ものがもっぱら他に縁<sup>よ</sup>って生じることは、同一ではない。ものが存在していないとは、ものに本体がないということであり、本体がないものにも、何かを行うはたらきはある。
- ④ ものに本体がないことと、ものが存在していないことは、同一ではない。ものに本体がないとは、ものがそれ自身で存在していないということであり、それ自身で存在していないものにも、何かを行うはたらきはある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	17	④	3

問4 人々がともに生きることについて先哲たちが説いた教えの記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① プラトンは，国家を構成する統治者階級，軍人階級，生産者階級がそれぞれ知恵の徳，勇気の徳，節制の徳を発揮するとき，正義が成立し，調和のとれた理想国家が実現すると主張した。
- ② 仏教では，在家信者がひとしく守るべき五つの戒めが定められた。そのなかには，人のものを盗んではならないという「不偷盗戒」や，人に嘘をついてはならないという「不妄語戒」などが含まれる。
- ③ ムハンマドは，血縁関係に基づく従来のアラブの部族社会に対して，信仰によって結ばれたイスラーム共同体の構築を唱えた。ウンマと呼ばれるこの共同体は，部族や民族の枠を超えて開かれている。
- ④ ユダヤ教の律法学者たちは，共同体の内部において，律法を守りたくても守れないでいる病人や貧しい人，徴税人たちを差別せず，彼らに対しては，律法を遵守しなくても救われると説いた。

問5 次のア～ウは，大乘仏教において説かれた様々な思想についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 15

- ア ヴァルダマーナによって唱えられた空の思想では，縁起の教義が徹底され，あらゆる事物は，固定的な不変の実体をもたないと説かれた。
- イ アサンガやヴァスバンドゥによって確立された唯識思想では，すべての事物は，心によって生み出された表象にほかならないと説かれた。
- ウ 『涅槃経』などにおいて強調された仏性思想では，六波羅蜜の修行を實踐して功德を積むことで，自らが仏となる可能性を獲得すべきと説かれた。

- ① ア 正    イ 正    ウ 正
- ② ア 正    イ 正    ウ 誤

- ③ ア 正 イ 誤 ウ 正  
④ ア 正 イ 誤 ウ 誤  
⑤ ア 誤 イ 正 ウ 正  
⑥ ア 誤 イ 正 ウ 誤  
⑦ ア 誤 イ 誤 ウ 正  
⑧ ア 誤 イ 誤 ウ 誤

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問4	14	④	3
第2問	問5	15	⑥	3

2014 年本試

問 8 次の文章は、大乘仏教における「菩薩」の行うべき実践についてブッダが説いたとされているものである。ここで述べられていることについて、大乘仏教の思想を踏まえて説明した文章として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 

18
----

菩薩の道を志したものは、ここでつぎのような考えを起こさなければならない。……「彼ら(衆生)すべてを、私は、涅槃の世界に引き入れなければならない。しかもなお、たとえそのように無数の衆生を涅槃に導いたとしても、実はいかなる衆生も涅槃にはいったのではない」と。

それはなぜかという、もしも菩薩に衆生という観念が生ずるならば、彼を菩薩と呼ぶべきではないからである。それはまたなぜか。もし彼(菩薩)に自我という観念が生ずるなら、あるいは衆生という観念、命あるものという観念、個我という観念が生ずるなら、彼を菩薩と呼ぶべきではないからである。

(『金剛般若経』より)

- ① 菩薩はまだ仏ではないため、衆生の固定的実体をすべては把握できない。それゆえ、菩薩は、衆生を導く働きを放棄し、自分の悟りの完成を目指して努力すべきである。
- ② すべての衆生は、いかなる固定的実体ももってはいない。そのことを理解したうえで、菩薩は、導く自分にも導かれる衆生にも執着することなく、衆生を涅槃へと導くべきである。
- ③ 菩薩はまだ仏ではないため、衆生の固定的実体をすべては把握できない。それゆえ、菩薩は、まずは自分にとって身近な衆生から徐々に涅槃へと導くよう努力すべきである。
- ④ すべての衆生は、いかなる固定的実体ももってはいない。そのことを理解したうえで、菩薩は、まずは自分が悟りを開き仏となり、その後、衆生を涅槃へと導くべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	②	3



2014 年追試

問 8 次のア～ウは様々な思想や宗教における，知の位置づけについての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

18

ア アウグスティヌスは，哲学を「神学の侍女」と位置づけ，信仰の追求には不要であると述べている。

イ 孟子は，自分や他人の正しくない点を恥じて憎む心を養い育てていくことで，四徳の一つである智を実現できると主張している。

ウ 大乘仏教において，六波羅蜜という六つの実践徳目の一つに位置づけられている「智慧」は，迷いを離れ真実を悟る働きのことである。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	⑦	3

2013 年追試

問 2 古代インドの仏教では食事の作法を含め、様々な規則が定められた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 在家信者は、不飲酒戒、不殺生戒、不邪淫戒などの五戒を遵守することが求められた。
- ② 五戒の受戒は、ブッダ、仏教の教え、僧侶集団の三者に帰依した出家者のみに許されていた。
- ③ 出家者は、修行に専念するため、在家信者ほど厳しい生活規則は課されなかった。
- ④ 在家信者も出家者も、無所有などの五戒を守ることによって、煩惱から離れることを目指した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	13	①	2

2012 年本試

問 4 古代インドでは世界を貫く真理について様々な仕方で考えられてきたが、その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 竜樹(ナーガールジュナ)は、存在するすべてのものには実体がないという思想を説いた。
- ② ウパニシャッド哲学では、人間だけでなくすべての生あるものが成仏できる可能性をもつと説かれた。
- ③ 世親(ヴァスバンドゥ)は、梵我一如の体得によって輪廻の苦しみから解脱することを説いた。
- ④ ジャイナ教では、世界のあらゆる物事は人間の心によって生み出された表象であると説かれた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	7	①	2

2012 年追試

問 2 部派仏教の出家修行者たちが目指していた、煩悩のない境地に到達した理想的な修行者のことを何と呼ぶか。正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 菩薩      ② 法身      ③ 比丘      ④ 阿羅漢

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	5	④	2

2010 年追試

問 6 ブッダが教えを広める決意をした際に起こしたと伝えられる慈悲心は、あらゆる生命あるものへと向けられており、大乘仏教ではその方向性はより顕在化した。この内容を表す記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

10
----

- ① あらゆる生命あるものの意志への配慮が重視されそれに反する教えを駆逐するためには戦うことも辞さない態度が理想とされた。
- ② 出家をした後、あらゆる生命あるものを殺さないように配慮しながらひたすら苦行を積むことで、救済に至ることが理想とされた。
- ③ 創造主によって、人は善き道德性を与えられており、自らの徳を育む修養が完成した後にあらゆる生命あるものにそれを広めることが理想とされた。
- ④ あらゆる生命あるものはことごとく救済される可能性をもっており、それらの救済を目指して修行することが理想とされた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	10	④	3

2009 年追試

問 4 インドの諸思想における苦行についての説明として**適当でないもの**を，次の

①～④のうちから一つ選べ。 

8
---

- ① ウパニシャッド哲学では，アートマンとブラフマンとが同一だと知る手段の一つとして，苦行が捉えられた。
- ② 原始仏教では，悟りを得る手段としての苦行を否定し，中道としての八正道を正しい修行法とした。
- ③ 大乘仏教では，自らの悟りを第一に求める求道者である菩薩が，苦行によって悟りに到達できるとした。
- ④ ジャイナ教では，輪廻から解脱するには厳しい苦行のほかに，不殺生などの戒めを守ることが求められた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	8	③	3

2007 年追試

問 6 大乘仏教の特色として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 瞑想めいそうを通して、自己の中に自己を超えた宇宙の原理ブラフマンを直観することを追求した。
- ② 輪廻から離れることを目指す者は出家して精進すべきだとして、出家者のみに悟りの可能性を認めた。
- ③ 汚れある物質が身体に入るのを防ぐため、断食などによって身体を浄化することを説いた。
- ④ 一切衆生悉有仏性という考え方に立ち、救済の可能性を広く認める修行論を説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	10	④	3

2004 年本試

問 5 「慈悲」に関する次の文章中の  ～  に入る語句の組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

「慈悲」とは，衆生に  を与える「慈」，衆生の  を取り除く「悲」から成る，生けるものすべてに向かった普遍的な心の在り方を表している。  
 を目的とすると言われる上座部仏教に対して，大乘仏教では利他の心としてこの慈悲が強調される。そして，菩薩はこの慈悲の姿の理想であり，衆生の救済に努めるとされる。

- ① a 楽      b 苦      c 自他の解脱
- ② a 楽      b 苦      c 自己の悟り
- ③ a 福      b 厄      c 自他の解脱
- ④ a 福      b 厄      c 自己の悟り

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 5	6	②	3



2003 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

古代インドでは中庸に類する思想が、求道における実践の問題としても説か  
れている。ゴータマ・ブッダは、王子としての恵まれた生活と森林での苦行という  
両極端の体験を経て、快樂にも苦行にも偏らない中道こそが悟りへの道であると捉  
え、弟子たちへの最初の説法において、「二つの極端(二辺)に近づいてはならない」  
と語ったと伝えられている。この中道は彼の実践の特質を示すものであったが、後  
の大乗仏教の思想家  に至って、すべての存在を等しく空であるとする思想の  
中で新たな意義を獲得した。

- ① ナーガールジュナ (竜樹)                      ② ヴァスバンドゥ (世親)  
③ アサンガ (無着, 無著)                      ④ ボーディダルマ (達磨)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	2	①	2

2002 年本試

問 4 インドの仏教教団は上座部と大衆部に分裂した。その中で，上座部仏教に関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

6
---

- ① ブッダを理想化した大乘経典を用いて俗人への布教を重視し，中央アジアを経て，中国，朝鮮，さらに日本に<sup>でんぱ</sup>伝播した。
- ② ブッダが制定したとされる戒律を忠実に守り，スリランカでは国家の保護を受け，さらに東南アジアに伝わった。
- ③ アーリア人上層階層出身者の部派であったため，保守的で，外国人への布教を好まず，インド国内にのみ伝播した。
- ④ 中観や唯識の大乘仏教教理を完成し，チベットに伝播して国家の保護を受け，さらにモンゴルに伝わった。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	6	②	3

2001 年本試

問 2 大乘仏教における菩薩についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

3
---

- ① 悟りを開こうとする求道者<sup>くどうしや</sup>だが，生きとし生けるものすべての救済のためには自己の悟りを後回しにして献身する。
- ② 悟りを開いて真理に目覚めた者だが，実は肉体をもって出現した宇宙の真理そのものである。
- ③ 悟りを開く前のブツダの姿であり，苦行にも快樂にも偏らない中道を歩む者である。
- ④ 自己の悟りを求めて厳しい修行を完成した聖者であり，次に生まれ変わったときには仏となることができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	3	①	3